

新生児蘇生法スキルアップコース受講後アンケート報告 — 第1報 —

長野 伸彦¹、嶋岡 鋼¹、齋藤 誠¹、寺澤 大祐¹、野村 雅子¹、杉浦 崇浩^{1,2}、細野 茂春²
1, 新生児蘇生法 スキルアップコース準備ワーキンググループ
2, 新生児蘇生法委員会



第55回日本周産期・新生児医学会学術集会
筆頭演者氏名: 長野 伸彦 所属: 日本大学医学部小児科学系小児科学分野
利益相反状態の開示 私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません

目的

新生児蘇生法スキルアップコース(Sコース)は、基本手技とシナリオ演習を通して人工呼吸と胸骨圧迫の手技の維持・向上を目的とし、2015年から全国開催している。受講後アンケートから、有用性と課題を検討した。

方法

対象は、2015年4月から2019年1月にSコースを受講した10,935名で、職種、蘇生を実践する機会の有無、講義・手技・シナリオ演習内容の評価、受講前後での蘇生に対する自信の変化、受講後人工呼吸と胸骨圧迫が実施可能か、等を調査した。統計学的解析は、JMP® Pro 14を使用し、Pearsonのカイニ乗検定を用いて、 $p < 0.05$ を有意差ありとした。アンケート回収率は100%であった。

結果

受講者の背景

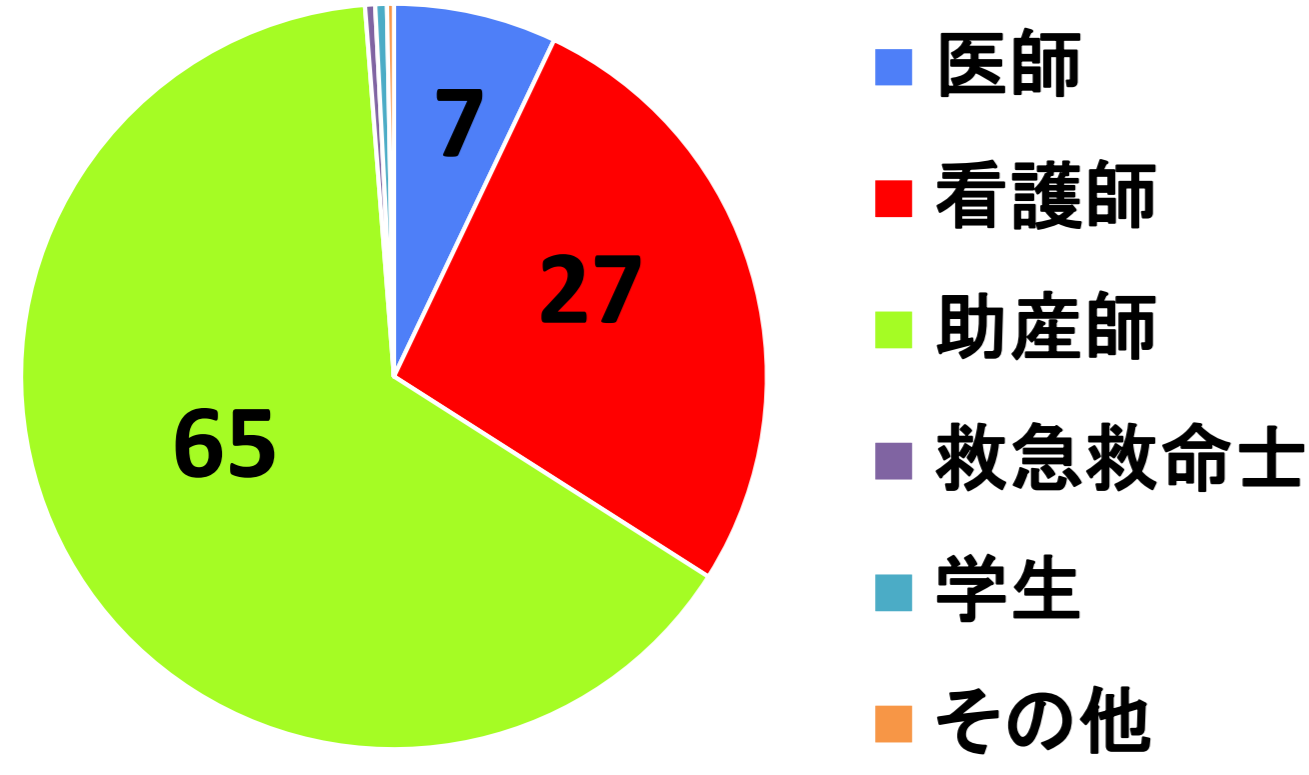


図1: 受講生の職種 (n=10,935)

産科	小児科	新生児科	小児外科	麻酔科
469	221	38	2	13
看護師	助産師	救急救命士	学生	
2948	7078	48	55	

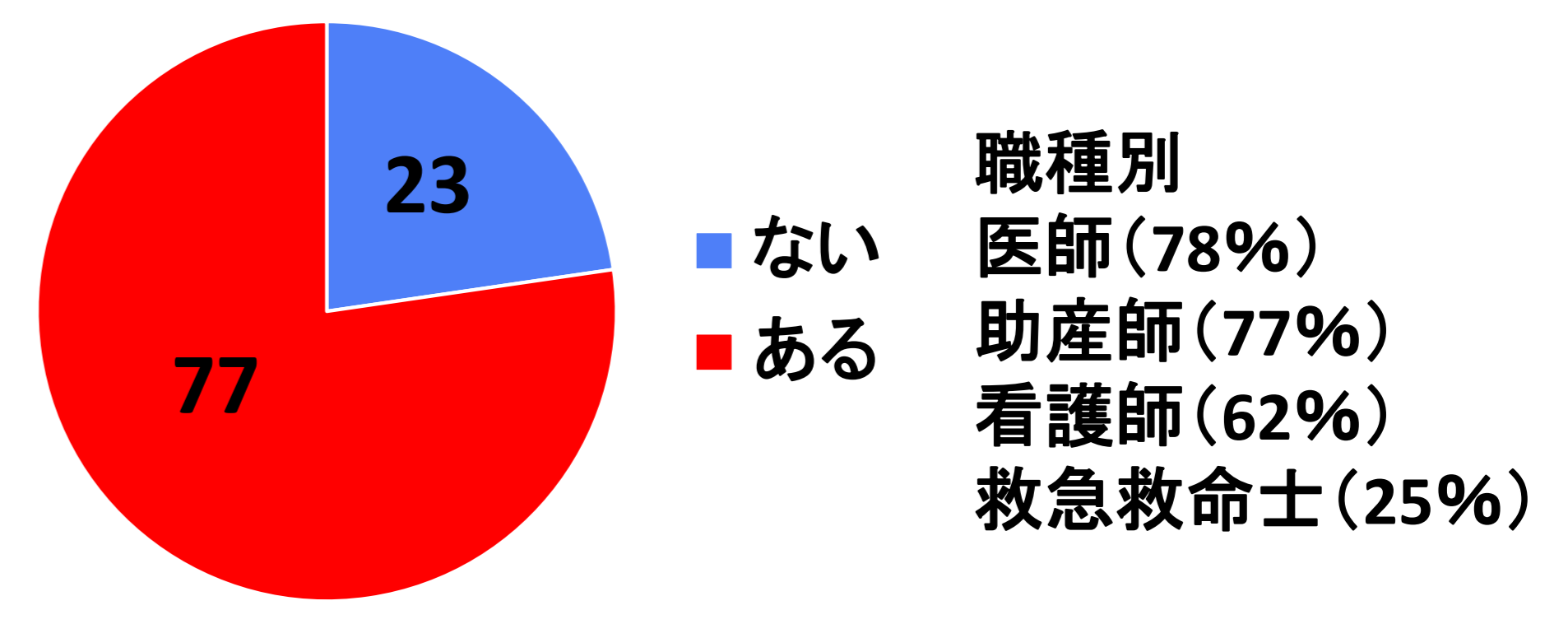


図2: 蘇生を実践する機会の有無

コースの評価

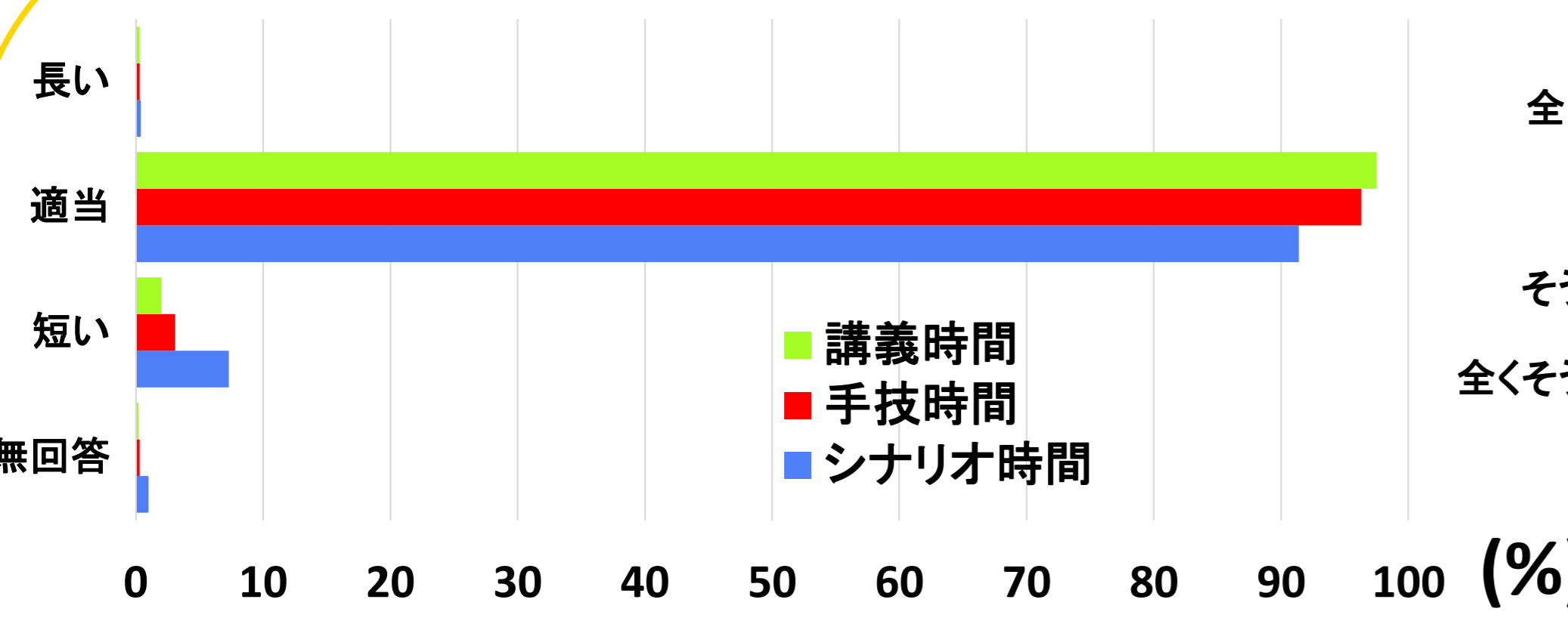


図3: 時間について

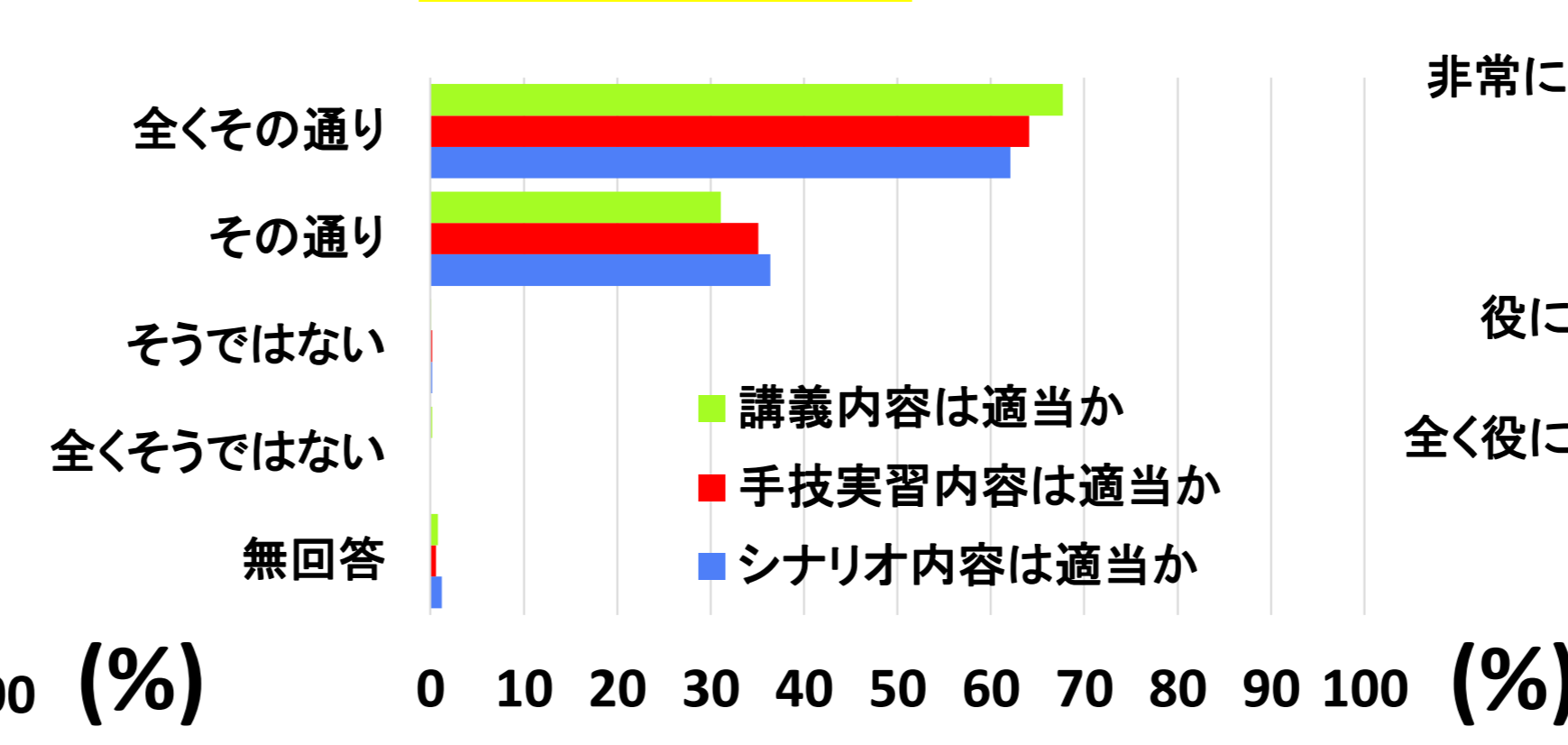


図4: 内容について

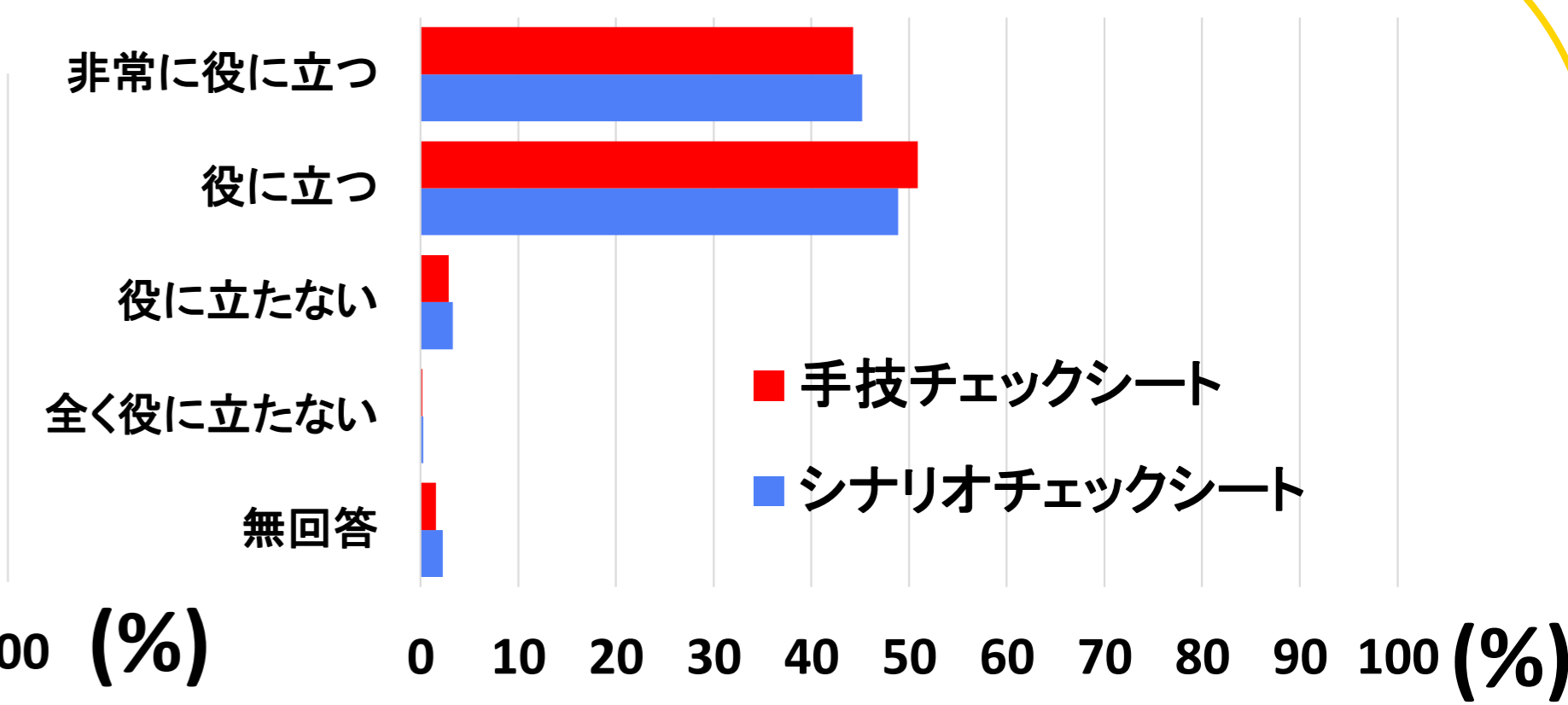


図5: チェックシートについて

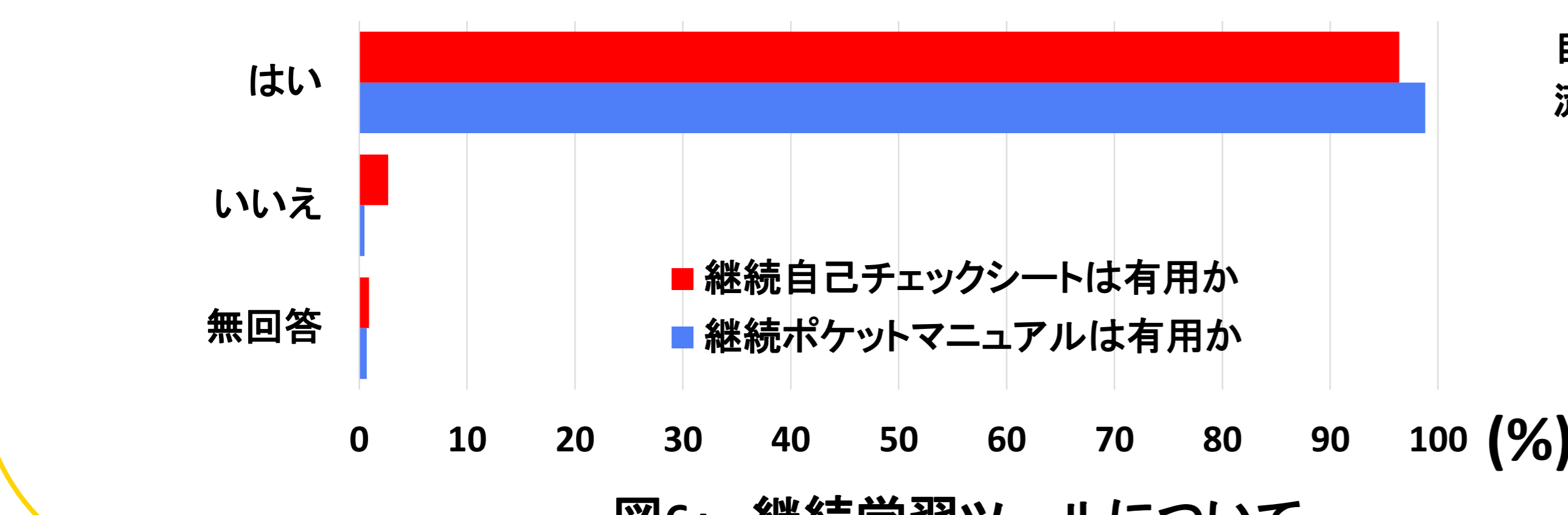


図6: 継続学習ツールについて

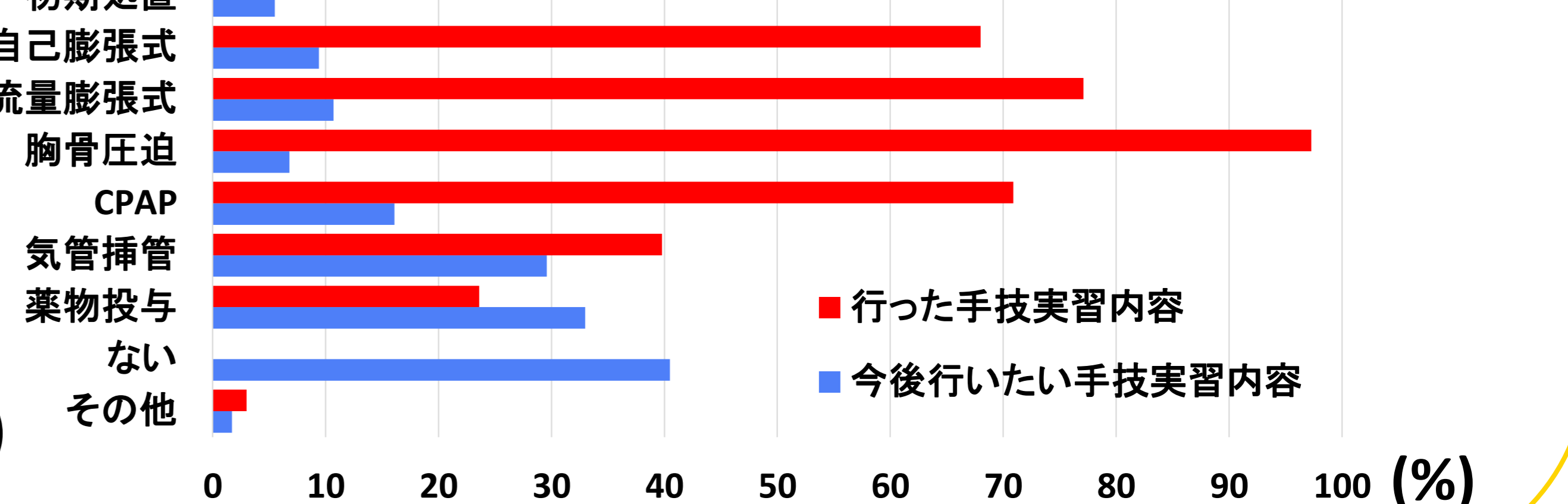


図7: 手技実習内容について

コース受講後の実技、蘇生に対する自己評価

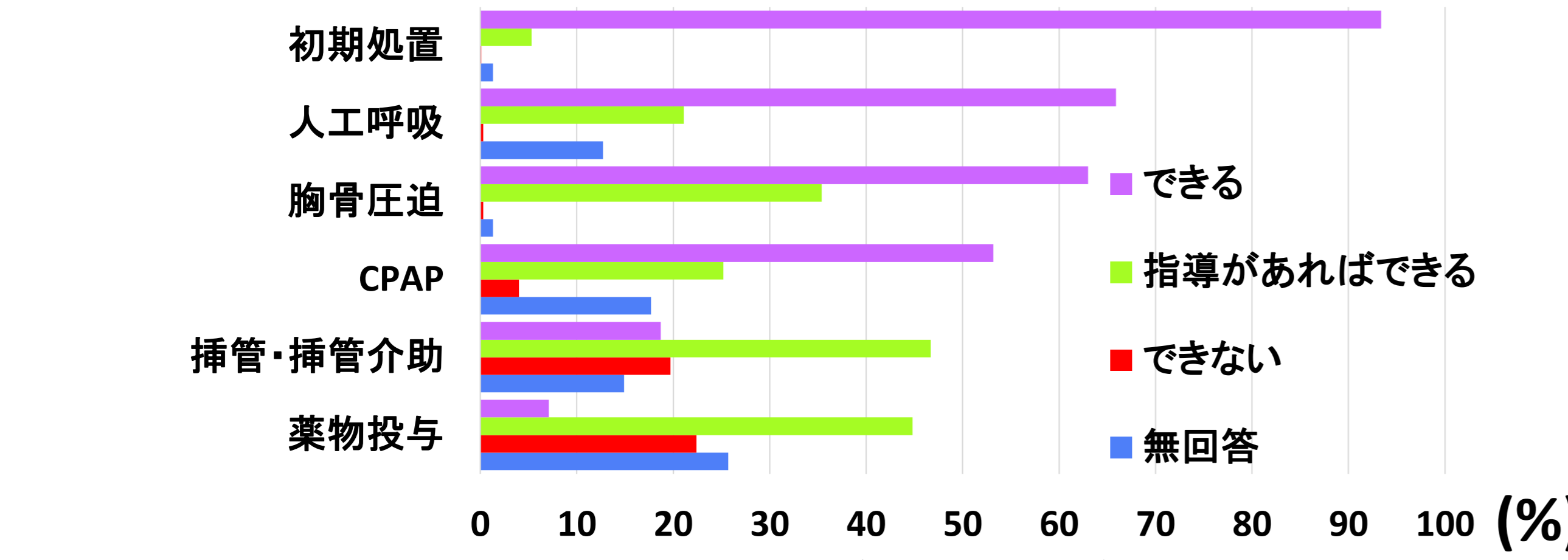


図8: 実技に対する自己評価

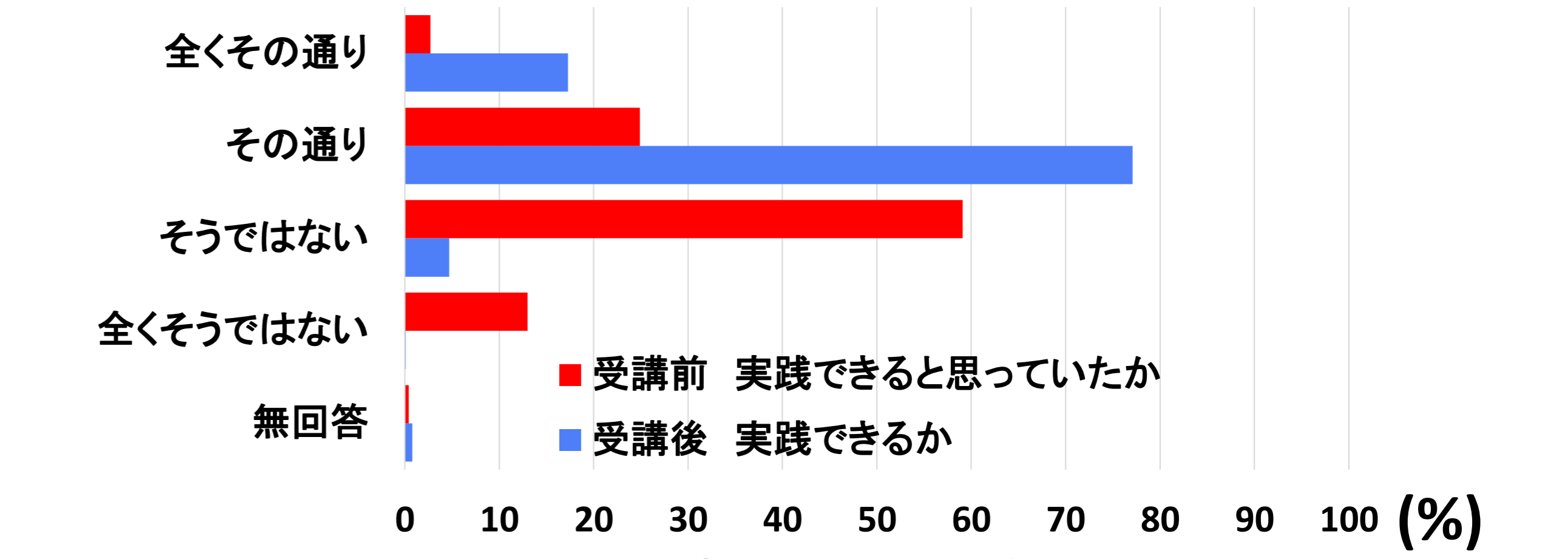


図9: 蘇生に対する自己評価

定期的な受講・開催について

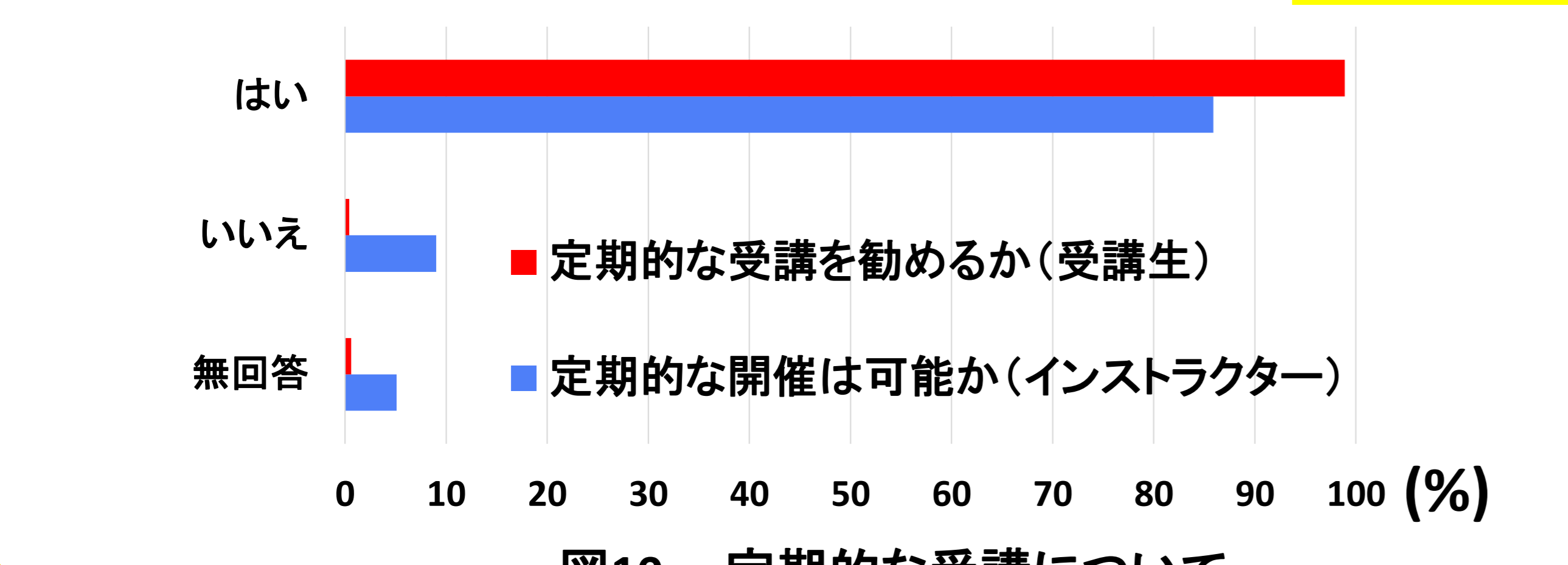


図10: 定期的な受講について

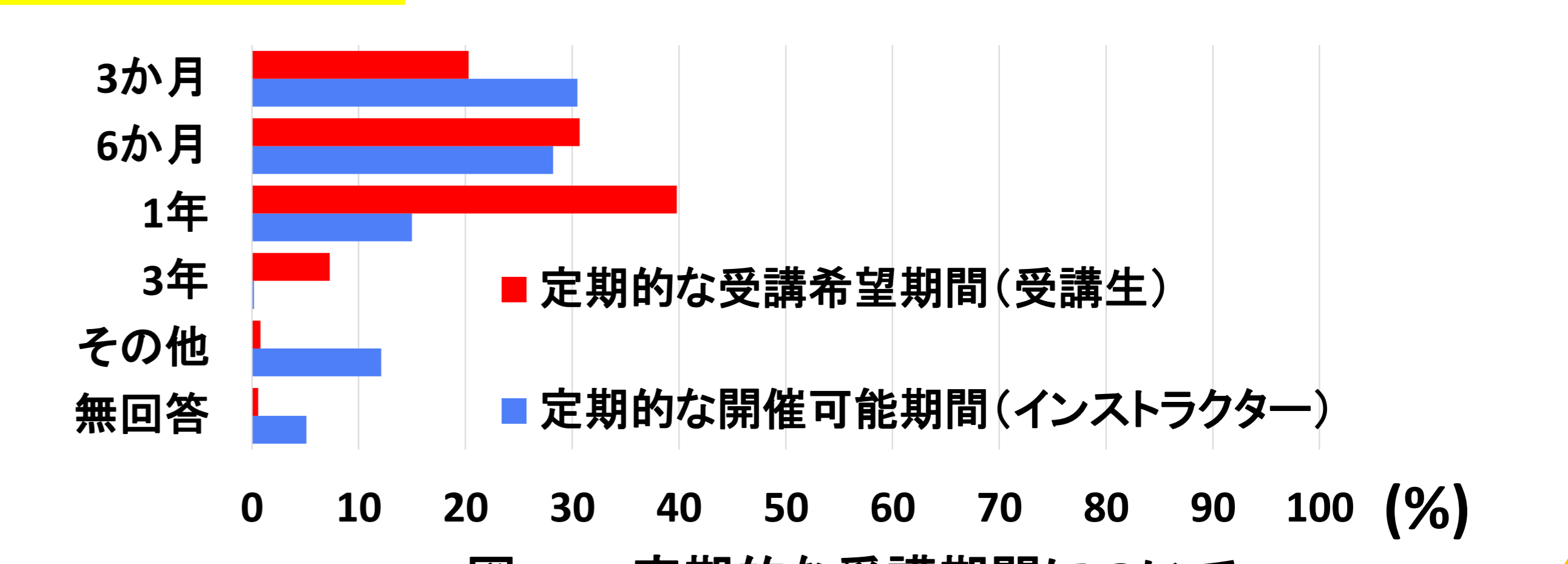


図11: 定期的な受講期間について

表1: Sコース受講と蘇生に対する自信の関係

	実践機会の有無			
	ない	ある	計	
受講前	できない層 (%)	2036 (88.3)	5347 (68.0)	7383
	できる層 (%)	270 (11.7)	2522 (32.0)	2792
	計	2306	7869	10175
受講後	できない層 (%)	254 (11.0)	246 (3.1)	500
	できる層 (%)	2044 (89.0)	7592 (96.9)	9636
	計	2298	7838	10136

Sコースは、新生児蘇生に対する自信を有意に増加させていた ($p < 0.01$)。

蘇生に対する自己評価に関連する因子

表2: 職種と蘇生に対する自信の関係

職種	実践機会の有無				
	ない	ある	計		
医師	受講後実践できないか	できない層 (%)	6 (6.7)	9 (1.5)	15
	できる層 (%)	84 (92.3)	594 (98.5)	678	
	計	90	603	693	
助産師	受講後実践できないか	できない層 (%)	108 (9.4)	165 (3.1)	273
	できる層 (%)	1044 (90.6)	5239 (96.9)	6283	
	計	1152	5404	6556	
看護師	受講後実践できないか	できない層 (%)	127 (13.3)	71 (3.9)	198
	できる層 (%)	827 (86.7)	1732 (96.1)	2559	
	計	954	1803	2757	
救急救命士	受講後実践できないか	できない層 (%)	1 (2.9)	0 (0)	1
	できる層 (%)	34 (97.1)	12 (100)	46	
	計	35	12	47	

医師、看護師、助産師で実践機会がない受講生が、有意に新生児蘇生に対する自信が低かった ($p < 0.01$)。

考察

- Sコース受講前後で新生児蘇生を行う自信がある人の割合は、全体では有意に増加した。一方で、実践機会のない受講生は実践機会のある受講生と比較して、受講前後とも自信がある人の割合は救急救命士を除いた他の職種では低かった。
- 委員会として実践機会のない受講生は新生児蘇生を行う自信がある割合が少ないため、臨床現場復帰前にSコースの受講を推奨し、実践機会のある受講生は1年以内の受講を希望する受講生が多数を占めることから、各施設において定期的な実技訓練を行うことを推奨する。

結論

- Sコースは受講前後で新生児蘇生を行う自信がある人の割合を有意に増加させる。
- 今後、技術の客観的評価とSコース受講間隔についてはさらなる調査が必要である。

謝辞

今回の発表に際して、データ集計の御協力を頂きました新生児蘇生法普及事業事務局の皆様へ深謝致します。